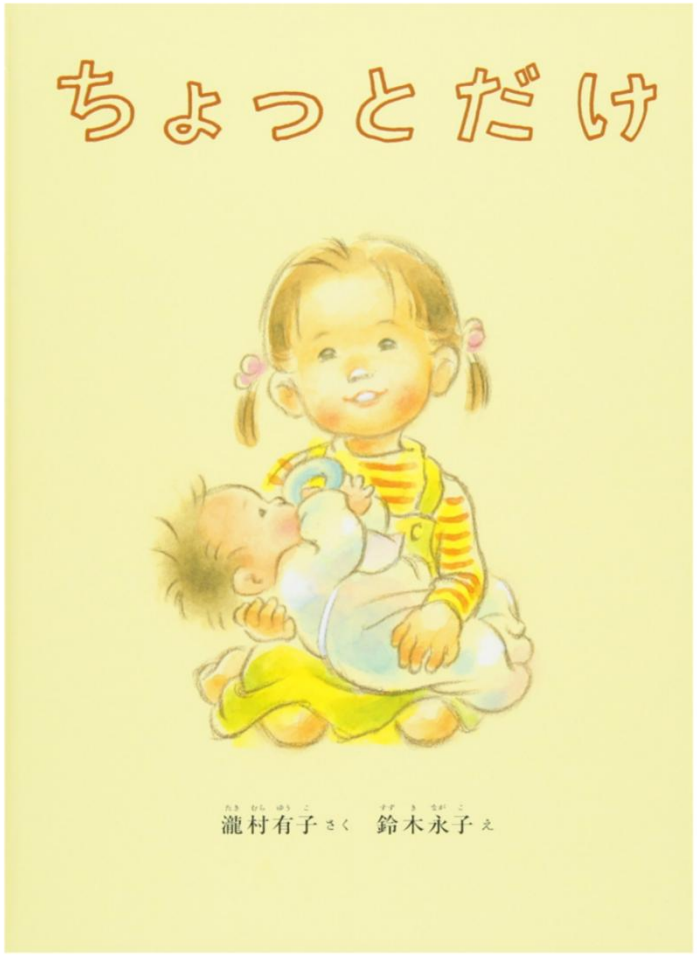
絵本の豊かさ・面白さ①



瀧村　有子　　文
鈴木　永子　　絵　　（福音館書店）

ちょっとだけ

瀧村有子 さく
鈴木永子 え



なっちゃんの　おうちに　あかちゃんが　やってきました。

なっちゃんは　おねえちゃんになりました。

なっちゃんは　ママの　スカートを
“ちょっとだけ”つかんで　あるきました。



なっちゃんは　ママの　スカートを

“ちょっとだけ”つかんで　あるきました。





おかいものから　かえると、なっちゃんは　のどが　かわきました。
ママに　ぎゅうにゅうを　ついでもらおうと　おもったら、
あかちゃんが　なきはじめました。
あかちゃんも　ミルクが　のみたいのかな……？
ママは　いそがしそうです。

なっちゃんは　はじめて　じぶんで
ぎゅうにゅうを　コップに　いれようとしました。
とっても　おもくて　むずかしかったけど……



やっとのことで“ちょっとだけ”いれることができました。



よる、なっちゃんが　パジャマに　きがえようとすると
ボタンが　うまく　とまりません。
ママに　おねがいに　いくと、
ママは　あかちゃんを　ねかせていました。
なっちゃんは　もういちど　じぶんで　がんばってみました。
おとうさんゆびと　おかあさんゆびが　いたくなったけど……



いつも　ママが　やってくれるのを　みていたので、
“ちょっとだけ”せいこうしました。



いつも　ママが　やってくれるのを　みていたので、
“ちょっとだけ”せいこうしました。





なっちゃんは　おうちから　みえる
いつもの　こうえんに　いきました。
　こうえんのそばで　なかよしの　ふみちゃんと　あいました。
ふみちゃんは　ママと　いっしょです。
「なっちゃん　ひとりで　きたの？」
ふみちゃんが　ききました。
「うん。ママは　あかちゃんの　おせわで　いそがしいの……」
なっちゃんは　こたえました。
「なっちゃん、おねえちゃんになったんだー。
あかちゃんって　かわいいでしょう？」
ふみちゃんの　ママが　ききました。
　なっちゃんは“ちょっとだけ”うなずきました。



なっちゃんは　ブランコに　のりました。
いつも　ママに　せなかを　おしてもらっていたので、
うまく　こげません。
つまさきで　ちょんちょんって　けったら、

“ちょっとだけ”ブランコが　ゆれました。



こうえんから　かえると、
なっちゃんは　ねむたくなってきました。
「もう　おねえちゃんだから　おひるねしないもん……」
でも、だんだん　めが　とじてきちゃいそう……。
なっちゃんが　いいました。
「ママ、“ちょっとだけ”だっこして……」



「ちょっとだけ？」
ママが　なっちゃんに　ききました。
「うん、“ちょっとだけ”でいいから」
なっちゃんは　ねむい　めを
こすりながら、いいました。





「“ちょっとだけ”じゃなくて
いっぱい　だっこしたいんですけど
いいですか？」
ママは　やさしく　わらって、
もういちど　ききました。

「いいですよ！」

なっちゃんも　にっこり　わらって　いいました。



なっちゃんは　ママの　においを　いっぱい　かぎながら、
いっぱい　だっこしてもらいました。

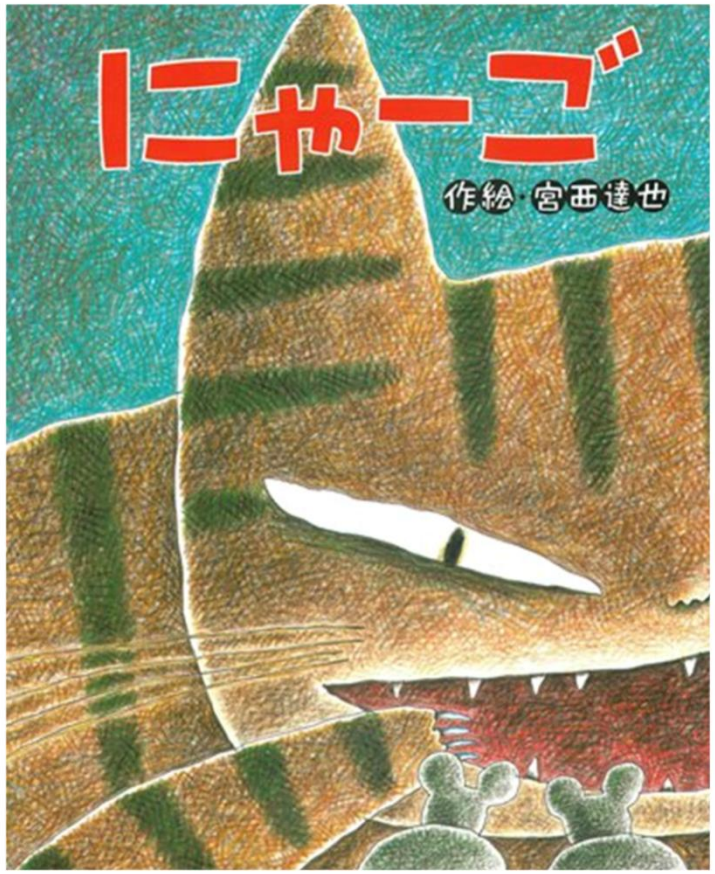
そのあいだ　あかちゃんに“ちょっとだけ”がまんしてもらいました。







絵本の豊かさ・面白さ②



今西達也 作・絵　　（鈴木出版）

にゃーご

作絵・宮西達也

にゃーご

作絵 宮西達也

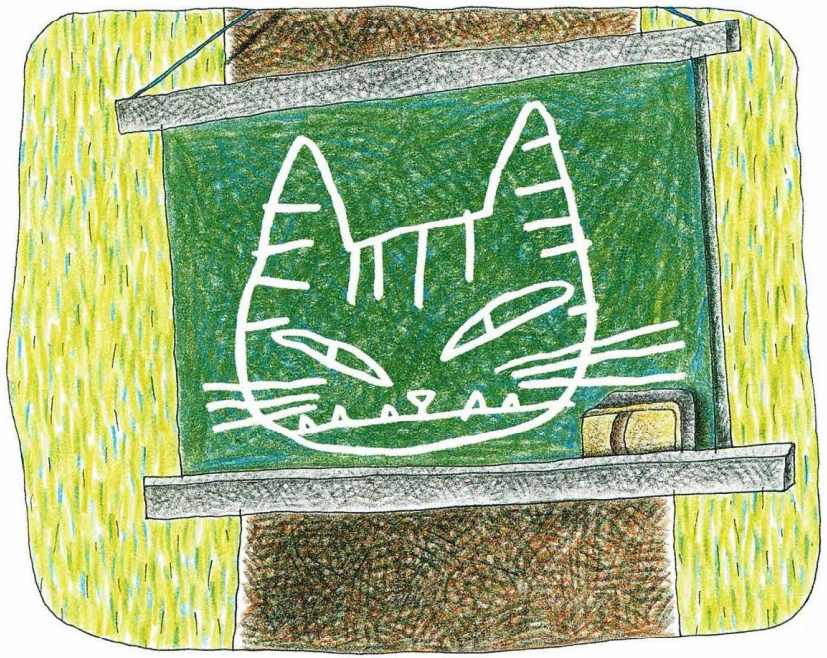
すずき出版

9784790260776
1928793013009

ひまわりえほんシリーズ
定価 本体1,300円 +税

すずき出版
ISBN978-4-7902-6077-6 C8793 ¥1300E

にゃーご



宮西達也／作・絵

「いいですか、これが　ねこです。
この　かおを　みたら
すぐに　にげなさい。
つかまったら　さいご、
あっと　いうまに　たべられて
しまいますよ」
こねずみたちは、せんせいの
はなしを　いっしょうけんめい
きいて　います。

でも……あれえ……
せんせいの　はなしを　ちっとも
きかずに　おしゃべり　して　いる
こねずみが　さんびき　いますよ。



しばらくして　さんぴきが
きがつくと、みんな
いなくなって　いました。
「あれれ、だれも　いないよ」
「それじゃあ　ぼくたちは
ももを　とりに　いこうか」
「うん、いこう　いこう」

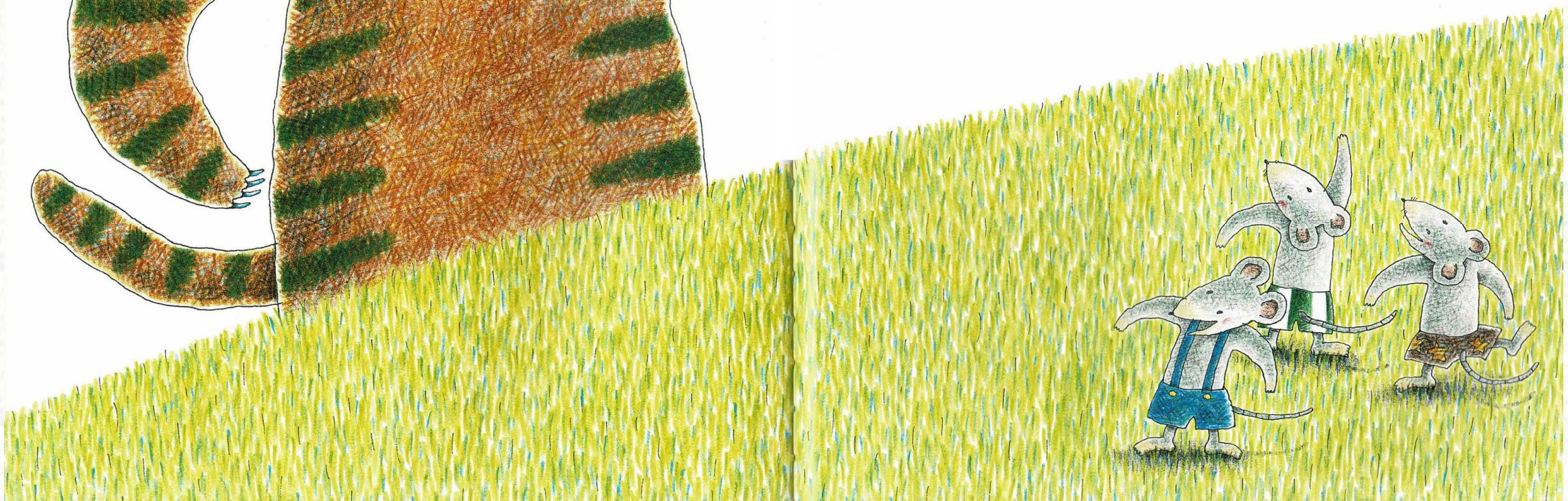


こねずみたちが　あるきだした
その　ときです。



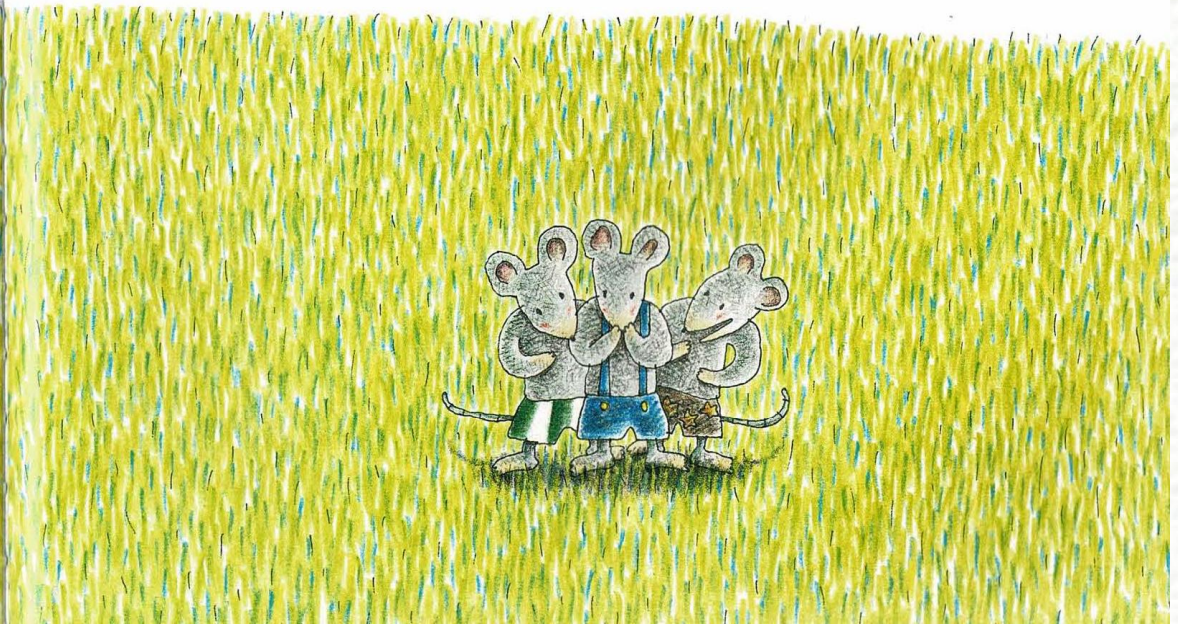
にゃーご

さんびきの　まえに
ひげを　ぴんと　させた
おおきな　ねこが
てを　ふりあげて　たって　いました。





さんびきは　かたまって
ひそひそごえで　はなしはじめました。
「びっくりしたね……」
「この　おじさん　だれだあ」
「きゅうに　でて　きて
にゃーご　だって」





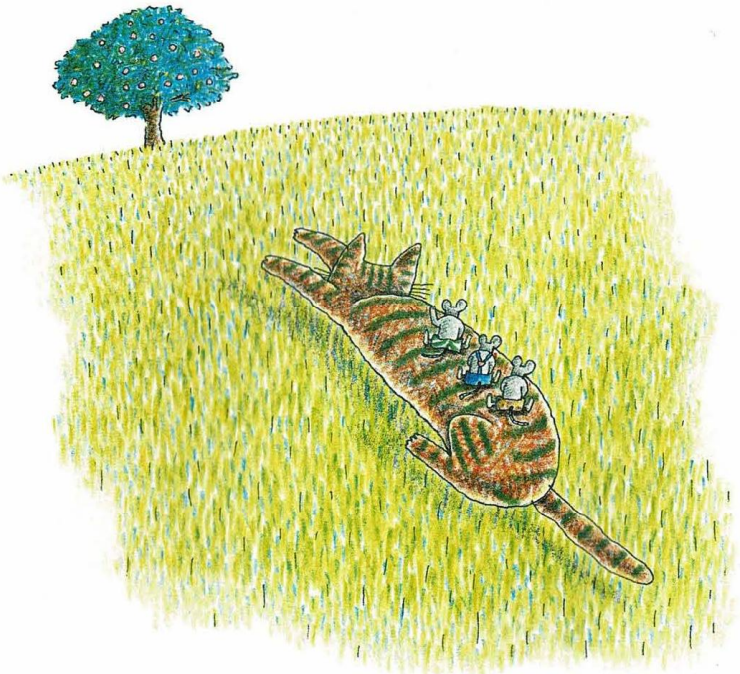
「おじさん　だあれ?」
ねこは　どきっと　しました。
そこで　こねずみは　もう　いちど
「おじさん　だあれ?」
と、げんきよく　ききました。
「だ、だ、だれって……
た、たまだ」
ねこは　いって　しまってから
すこし　かおを　あかくしました。



「そうか　たまか……ふーん」
「たまおじさん、ここで　なに　してるの？」
「な、なにって……べ、べつに……」
ねこは　くちを　とがらせて　こたえました。
「じゃあ　ぼくたちと　いっしょに
おいしい　ももを　とりに　いかない？」
それを　きいて、ねこは　おもいました。
（おいしい　ももか……うん、うん。
その　あとで　この　さんびきを……
ひひひひ……
きょうは　なんて　ついて　いるんだ）



ねこは　こねずみたちを　せなかに　のせると、
ももの　きの　ほうへ　はしって　いきました。
さんびきの　こねずみと　ねこは
ももを　たべはじめました。
（う、うまい……
でも　たくさん　たべたら　いけないぞ。
おなか　いっぱいに　なったら、
こいつらが　たべられなく　なるからな。
ひひひひ……）
ねこは　ももを　たべながら　おもいました。





ももを　たべおわると、
さんびきの　こねずみと　ねこは
のこった　ももを　もって、
かえって　いきました。

そして、
あと　すこしの　ところまで
きた　ときです。
ねこは　ぴたっと　とまって、


「にゃーご」
できるだけ
こわい　かおで　さけびました。
そして、
「おまえたちを　くってやる！」
と、いおうとした
その　ときです。

さんびきが　さけびました。

「へへへ……たまおじさんと　はじめて　あったとき、
おじさん　にゃーご！　って　いったよね。
あのとき、おじさん　こんにちは！　って
いったんでしょう。
そして　いまの　にゃーごが　さよなら　なんでしょ」
「おじさん　はい　これ　おみやげ」
「みんな　ひとつずつだよ。
ぼくは　おとうとに　おみやげ」
「ぼくは　いもうとに」
「ぼくは　おとうとに。
たまおじさんは　おとうとか　いもうと　いるの？」
「お、おれの　うちには　こどもが　いる……」
ねこは　ちいさな　こえで　こたえました。



「へー　なんびき？」
「よんひきだ」
ねこが　そう　いうと、
「よんひきも　いるなら
ひとつじゃ　たりないよね。
ぼくの　あげる」
「ぼくのも　あげるよ」
「ぼくの　ももも」
「うーん」
ねこは　おおきな　ためいきを
ひとつ　つきました。



ねこは　ももを　かかえて
あるきだしました。
こねずみたちが　てを　ふりながら
さけんで　います。
「おじさーん、また　いこうね」
「やくそくだよー」
「きっとだよー」
ねこは　ももを　だいじそうに
かかえたまま、
にゃーご
ちいさな　こえで　こたえました。

みやにしたつや
宮西達也

日本大学芸術学部美術学科卒業。『ふしぎなキャンディーやさん』（金の星社）で第13回日本絵本賞読者賞受賞。ほかに『おっぱい』『にゃーご』（鈴木出版）、『おまえうまそうだな』（ポプラ社）など、作品多数。
http://www014.upp.so-net.ne.jp/tats-m/

にゃーご　　作・絵／宮西達也

1997年2月5日初版第１刷発行　　2019年7月9日第34刷発行
発行者／西村保彦
発行所／**鈴木出版株式会社**　〒101-0051　東京都千代田区神田神保町3-5 住友不動産九段下ビル9F
電話 03(6774)8811　FAX 03(6774)8819　振替 00110-0-34090
http://www.suzuki-syuppan.co.jp/
印刷所／株式会社ウイル・コーポレーション

●このシリーズは、月刊絵本「こどものくに」（日仏保／編）の中で、特に評価の高い作品を選んでお届けするものです。

ISBN978-4-7902-6077-6　NDC 913／26.3 × 21.3cm
© Tatsuya Miyanishi 1997 Printed in Japan.
●乱丁・落丁本がありましたらお取り替えします。／定価はカバーに表示してあります。





絵本の豊かさ・面白さ③



マージョリー・ニューマン　文
パトリック・ベンソン　　絵
久山太一　　訳　（評論社）

書館・絵本の部屋



あいしているから

マージョリー・ニューマン ぶん／パトリック・ベンソン え
久山太市 やく



あいしているから

マージョリー・ニューマン ぶん／パトリック・ベンソン え
久山太市 やく





モールくんは、ひなどりを　みつけました。すから　おちてしまったのです。



まって　まって、いくら　まっても、おやどりは　たすけにきません。



そこで　モールくんは、ひなを
いえに　つれてかえりました。

すばこを　つくって、
「ママ、みて！」と、モールくん。

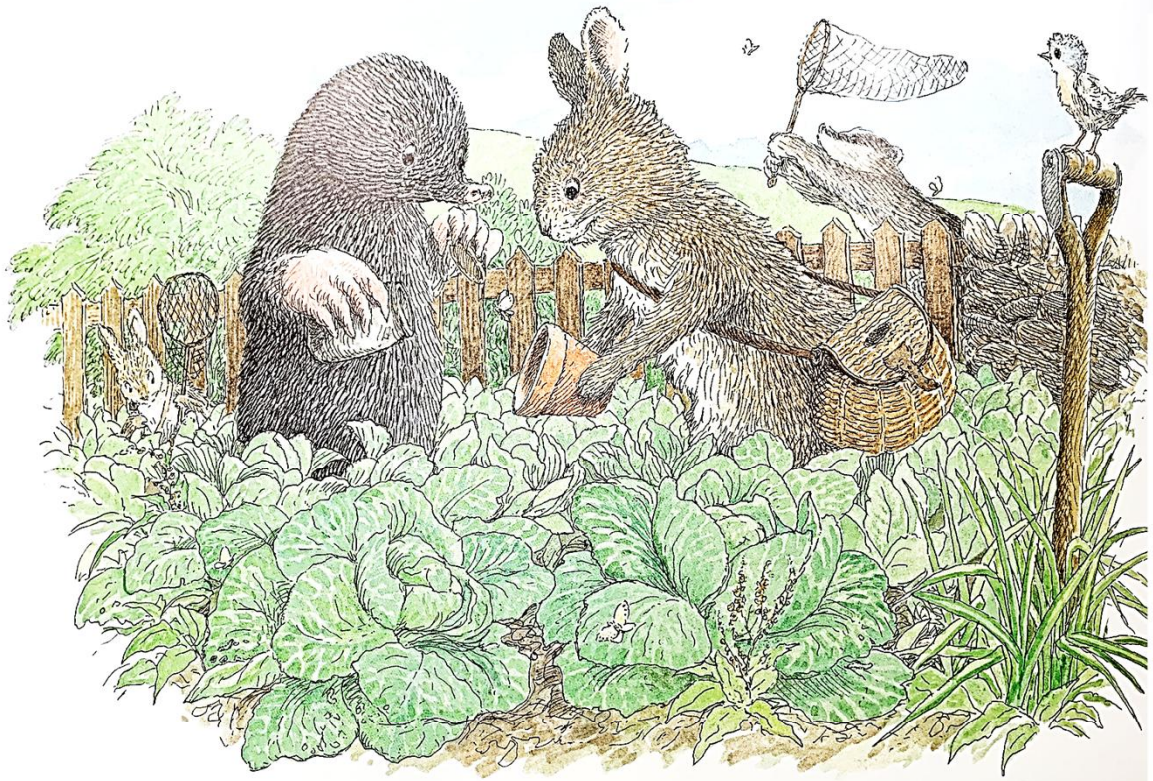




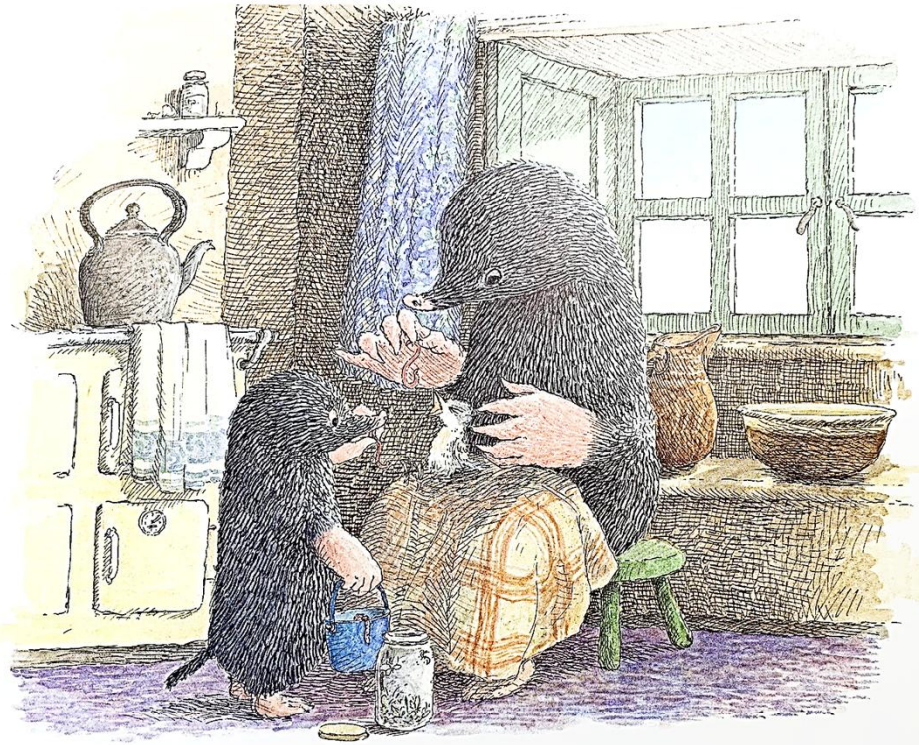
「ひなを　そだてるのは、とっても　とっても
むずかしいのよ」ママが　いいました。

「たいてい　しんじゃうよ」パパも　いいました。
「ぼくの　ことりは　しんだりしないよ」





ともだちが　いっしょに、ひなの　えさを　さがしてくれました。



ひなが　さえずると、モールくんは　えさを　やります。

ひなは　しなずに、おおきくなっていきました！

「ぼくの　ペットだ」モールくんが　いいました。

「ペットじゃないわ。やせいの　ことりよ」と、ママ。

ことりは　はばたきを　はじめました。



「とびたとうとしているのよ」ママが　いいました。

「ちがうよ！　ぼくの　ことりは　とんでいったりするもんか！」





モールくんは、いたきれと　くぎを　みつけて、



パパの　どうぐばこを　もちだしました。

「なにを　つくってるの？」
パパが　ききました。



「ぼくの　ペットの　とりかご！」

「それは　ペットじゃないよ。やせいの
ことりだ。はなしてやらなきゃ」と、
パパが　いいました。



「やだ！」

モールくんは、ことりを　あたらしい　とりかごに　いれました。
ことりは　かなしくなりました。



ママも　かなしくなりました。でも、モールくんは、ことりを
はなしてやりません。だって、あいしているんだもん。





おじいちゃんが　やってきて、

とりかごの　ことりを　みつめました。



おじいちゃんは　すぐに　いいました。

「ぼうや、さんぽに　いこうか」



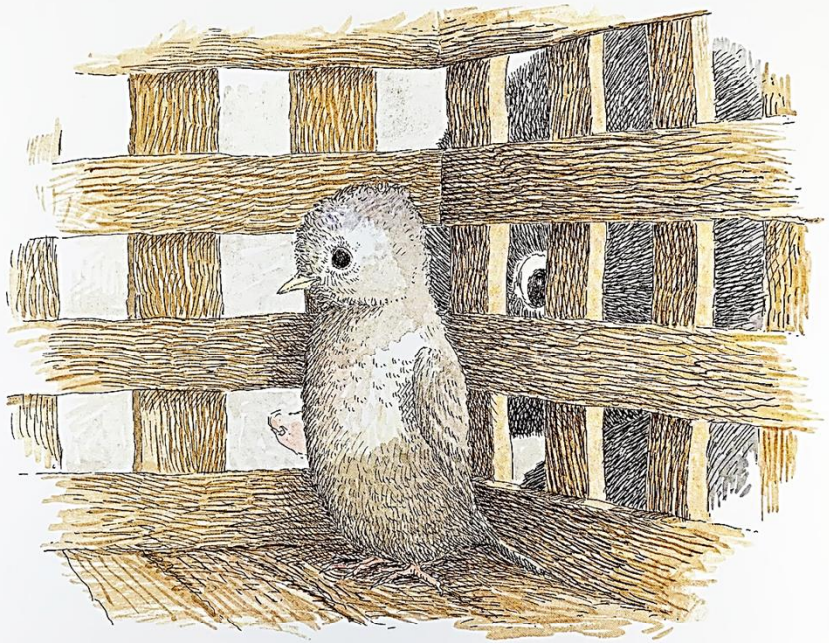
おじいちゃんは、モールくんを　たかい　おかの
てっぺんに　つれていってくれました。



「うわー！　ぼく、とんでるよ！」モールくんは　さけびました。

「そうみたいだね」と、おじいちゃん。

いえに　かえった　モールくんは、ことりを　みつめました。



ことりは、くらい　ちかしつに　おかれた
とりかごの　すみで、しょんぼりしています。

「とりって、そらを　とぶもんなんだ」



モールくんは　とりかごを　あけると、ことりを　はなしてやりました。
だって、あいしているんだもん。
なみだが　あふれて、とまらなくなりました。



つぎのひ　モールくんが　もりに　いくと、

あのことりが　つばさを　ひろげて、じゆうに　とびまわっています。

モールくんの　むねいっぱいに、あたたかい　きもちが　ひろがっていきました。



絵本の豊かさ・面白さ④



大森裕子　作　　（KADOKAWA）

わすれていいから

大森裕子



いいてんきだな。

ここは　おれの　なわばり。



—— そういえば、



はじめて　おれが











ここに　きたとき……





おまえ　いたよな。



おれは　どんどん　おおきくなって、



おまえは　ゆっくり　おおきくなった。

だから、おれのほうが　あにきだぜ。





ここは　おれたちの　なわばり。

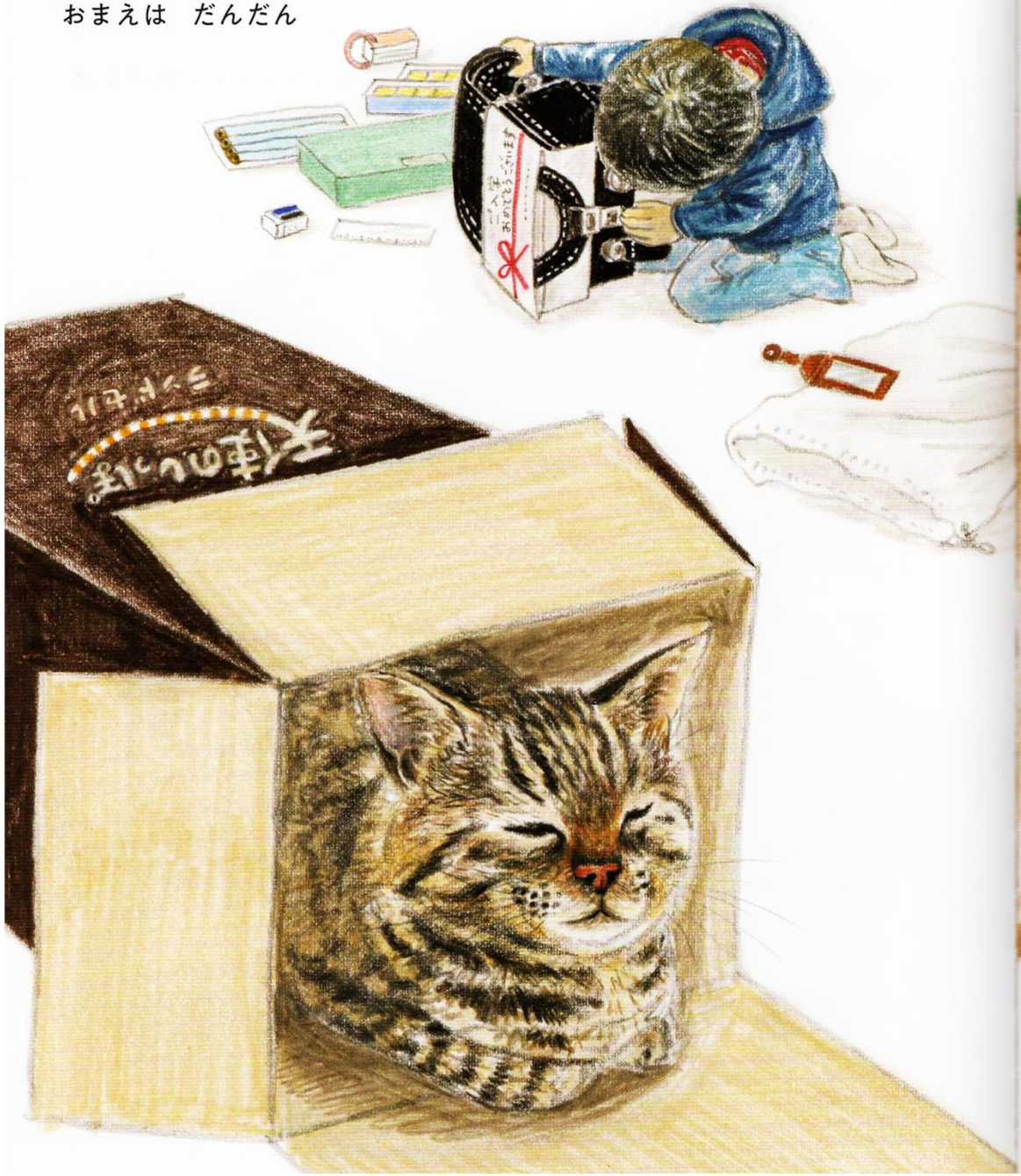
でもさ、なんか
おまえの　ごはんのほうが、



うまくないか？



おまえは　だんだん



いないことが
おおくなったよな。



こんな　ひ　も、





あったっけ。

よし、おれが　おしえて　やろう。



ちがう、
そうじゃない。



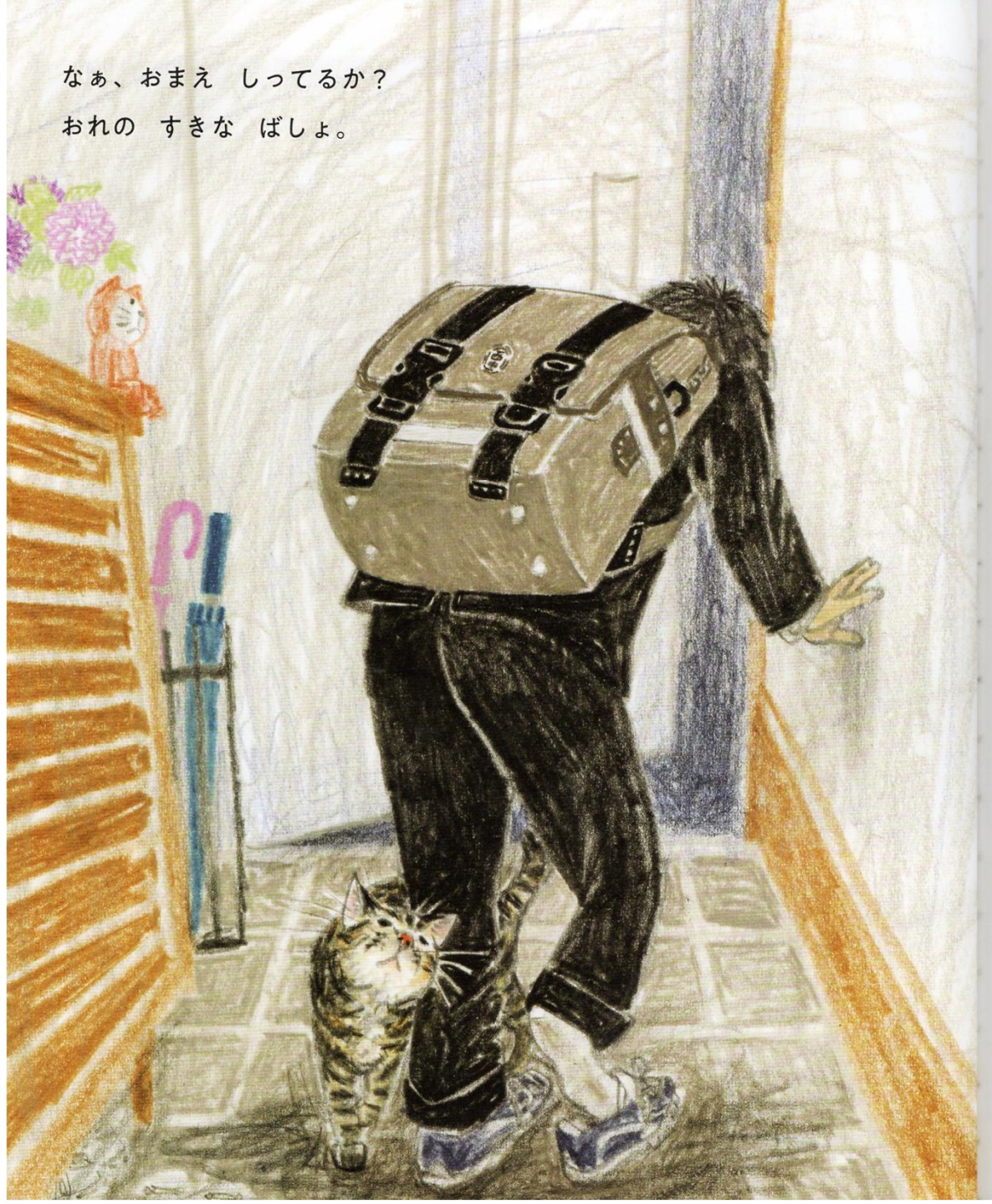


おまえは　すっかり　おおきくなったのに、



おれは　すこし　ちいさくなった　きが　する。

なぁ、おまえ　しってるか？
おれの　すきな　ばしょ。





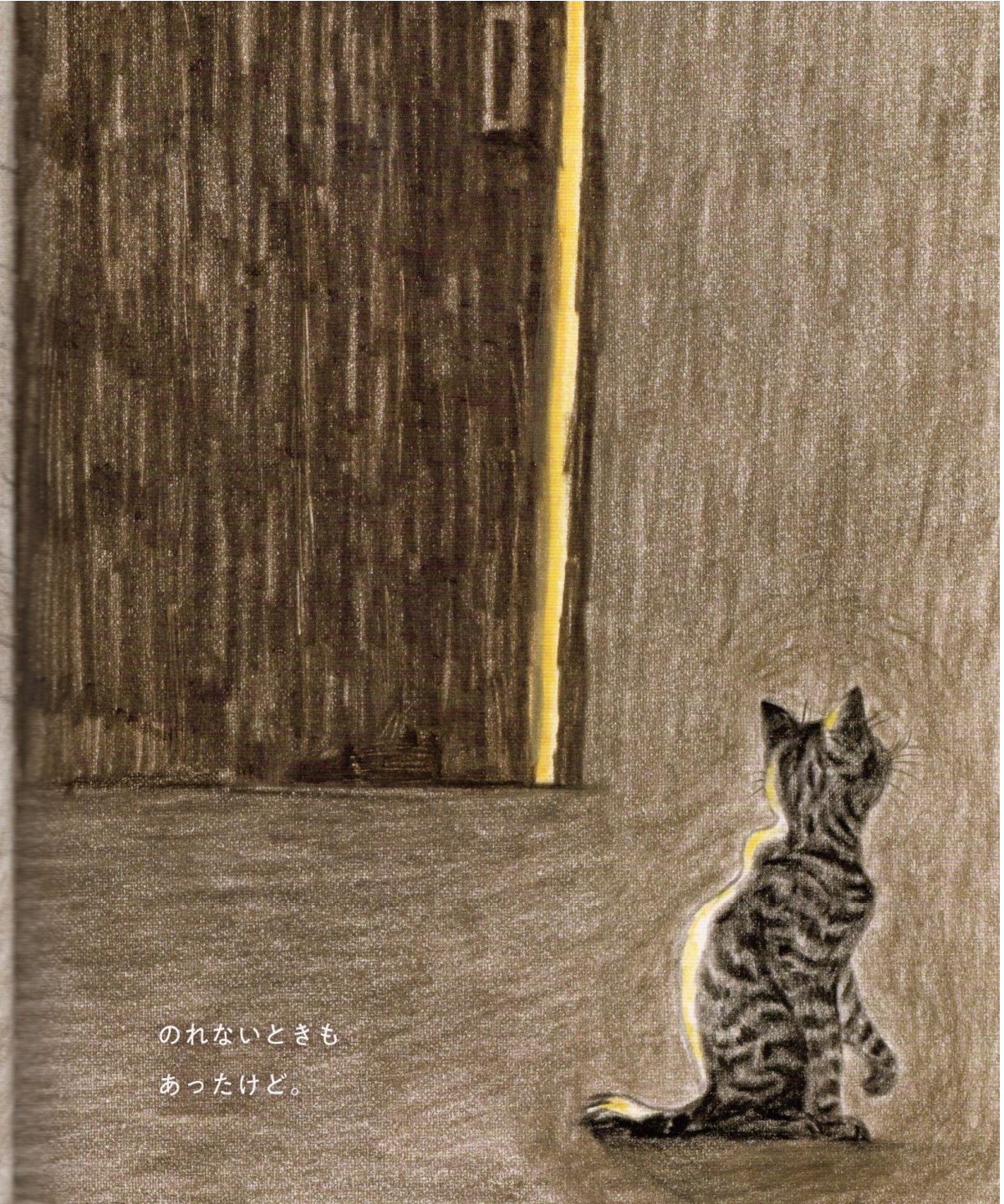
じつは　おれも



すみっこが　すきなんだよ。



おまえのひざも
わるくない。



のれないときも
あったけど。

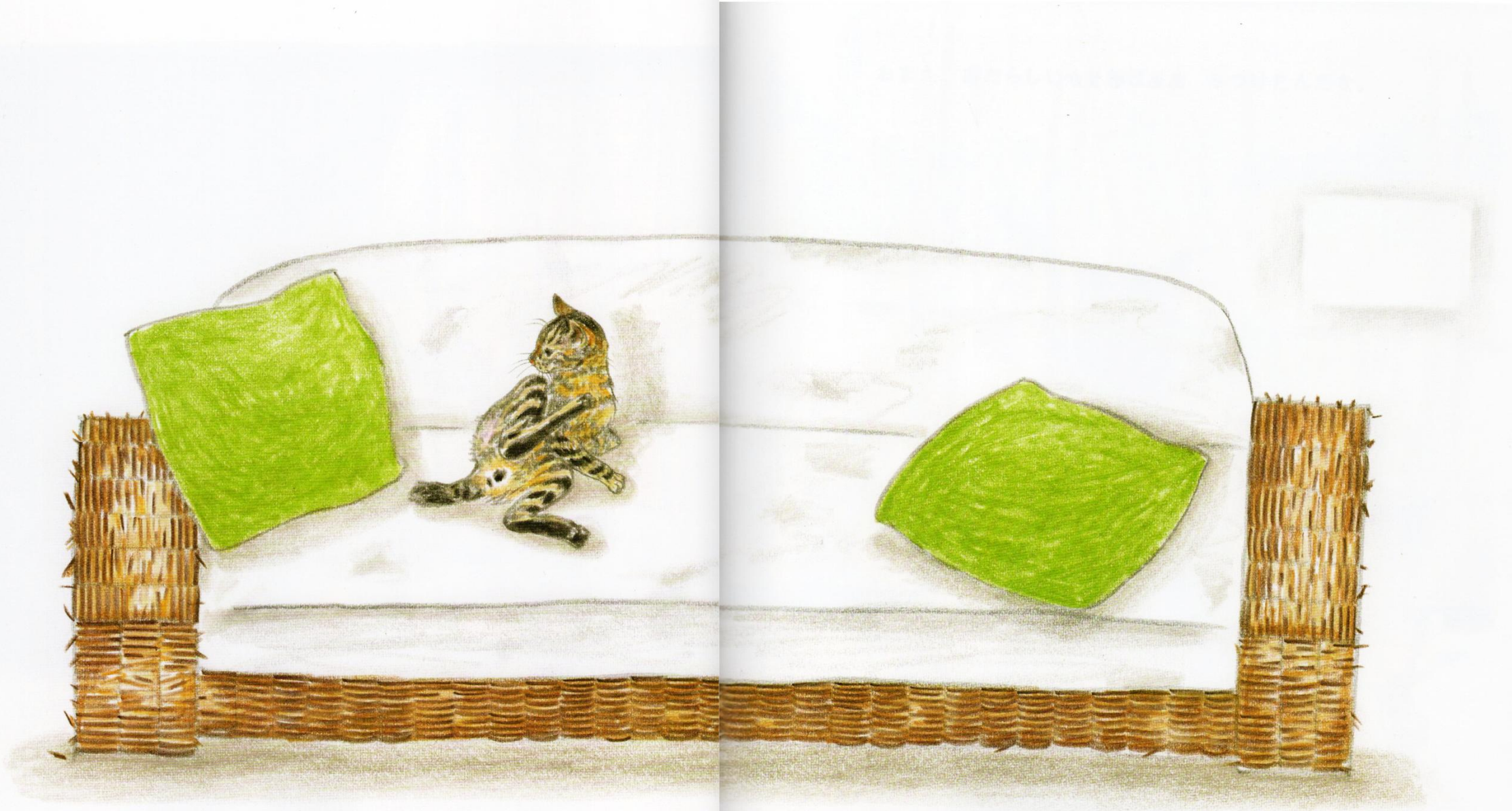
はこは　さいこう　だぜ。





とじちゃったら　おれが　はいれないだろ？





さいきん　おまえ　いないな。

あぁ　そうか。



おまえ、あたらしい　なわばりを　みつけたんだな。





げんきでな。

おれのことは　わすれていいから。

KADOKAWA





絵本の豊かさ・面白さ⑤



E=ジャック・キーツ 作
木島　始 訳　　（偕成社）

偕成社

ピーターのいす

E＝ジャック＝キーツ さく きじま はじめ やく







ピーターのいす

エズラ＝ジャック＝キーツさく　きじま はじめやく



ピーターは、うーんと　せのびした。
そらっ！　つみきのビルが、できあがり。

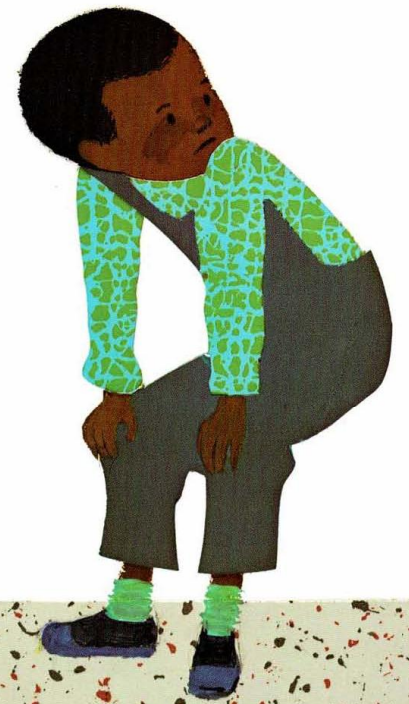






がしゃん！　いっぺんに、ぶっこわれた。
「しいーっ」と、おかあさんのこえ。
「もっと、しずかに　あそんでね。
うちには、うまれたての　あかちゃんが　いるのよ。」





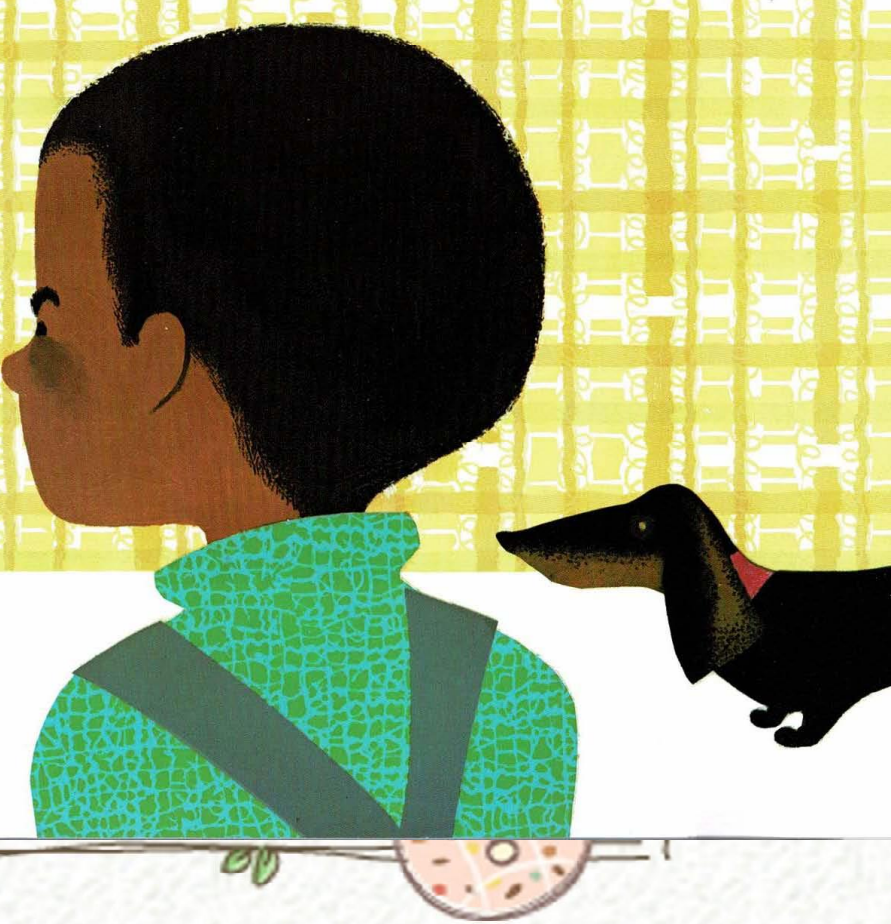
ピーターは、いもうとの　スージーの　へやを、
そっと　のぞいてみた。
おかあさんは、ゆりかごのまわりで、おおいそがし。
「あれ、ぼくの　ゆりかごだったのに、ピンクに　ぬっちゃった！」







「おい、ピーター、あかちゃんの　しょくどういすに　ペンキぬるの、
てつだって　くれんかなあ？」
おとうさんが　そう　いった。
「あれ、ぼくの　しょくどういす　なのになあ。」

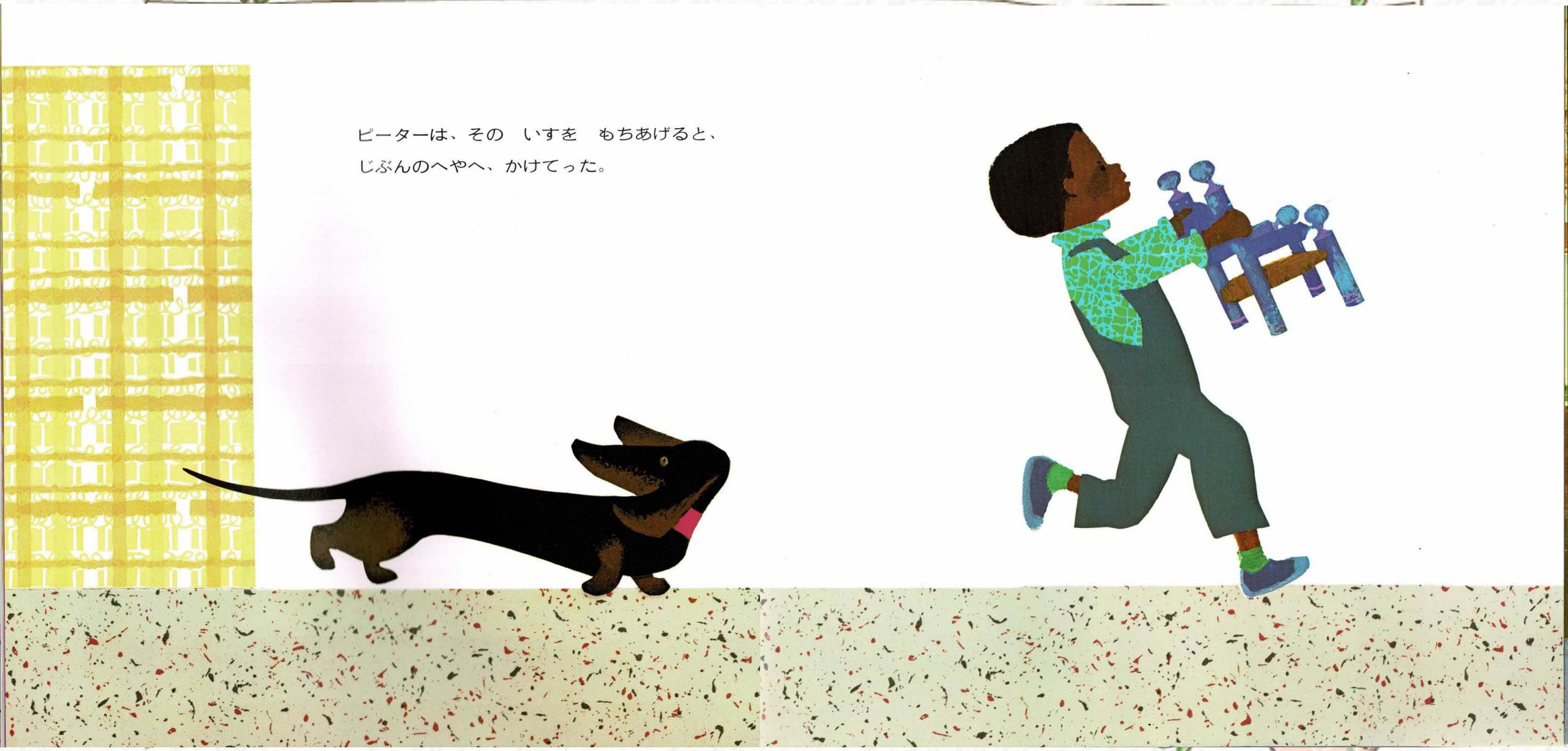




ピーターは、あかちゃんベッドを　みた。
「ぼくの　あかちゃんベッド。これも　ピンクに　ぬってあるぞ。」
ちかくに、ピーターの　ちっちゃいときに　すわった　いすが　あった。
「あれは、まだ、ぬってないぞ！」
ピーターは、おおごえを　あげた。



ピーターは、その　いすを　もちあげると、
じぶんのへやへ、かけてった。





「いえでしようや、ウィリー。」
ピーターは、かいものかごに、クッキーや　いぬのえさを、つめこんだ。
「あの　あおい　いすと、おもちゃの　ワニと、
あかちゃんのときの　しゃしんを、もっていこう。」
いぬの　ウィリーは、ほねを　くわえた。

ピーターと　いぬは、おもてに　でて、いえのまえに、たった。
「ここが、いいや」
ピーターは、もちものを、きちんと　ならべ、
しばらく、いすに　すわっていることに　した。

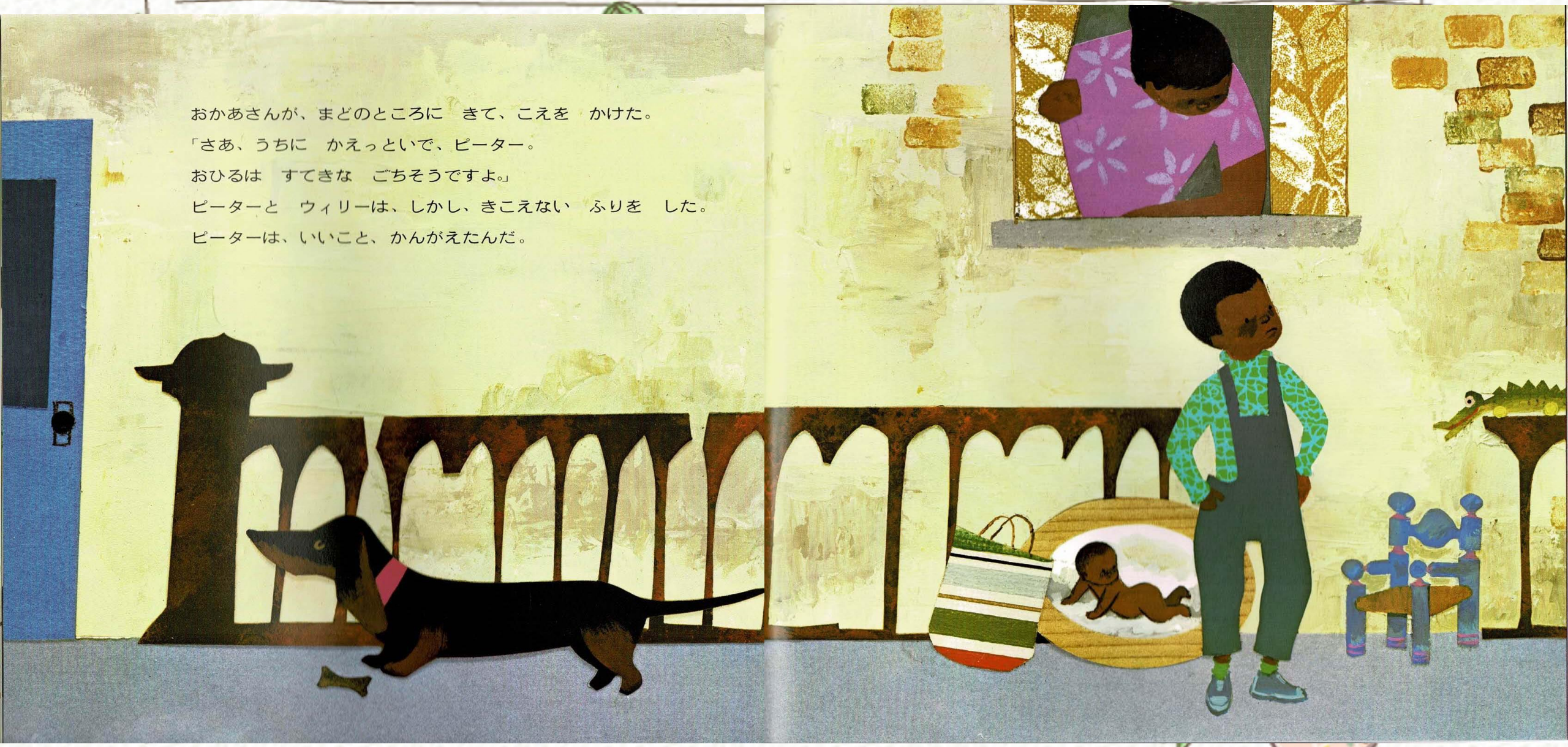


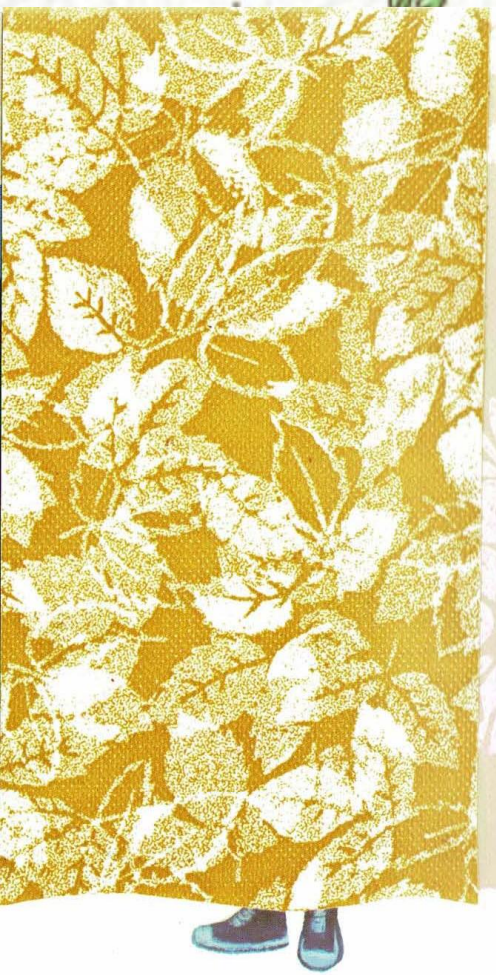
ところが、おしりが、いすに　はいらない。
ピーターは、おおきく　なりすぎていたんだ！





おかあさんが、まどのところに　きて、こえを　かけた。
「さあ、うちに　かえっといで、ピーター。
おひるは　すてきな　ごちそうですよ。」
ピーターと　ウィリーは、しかし、きこえない　ふりを　した。
ピーターは、いいこと、かんがえたんだ。



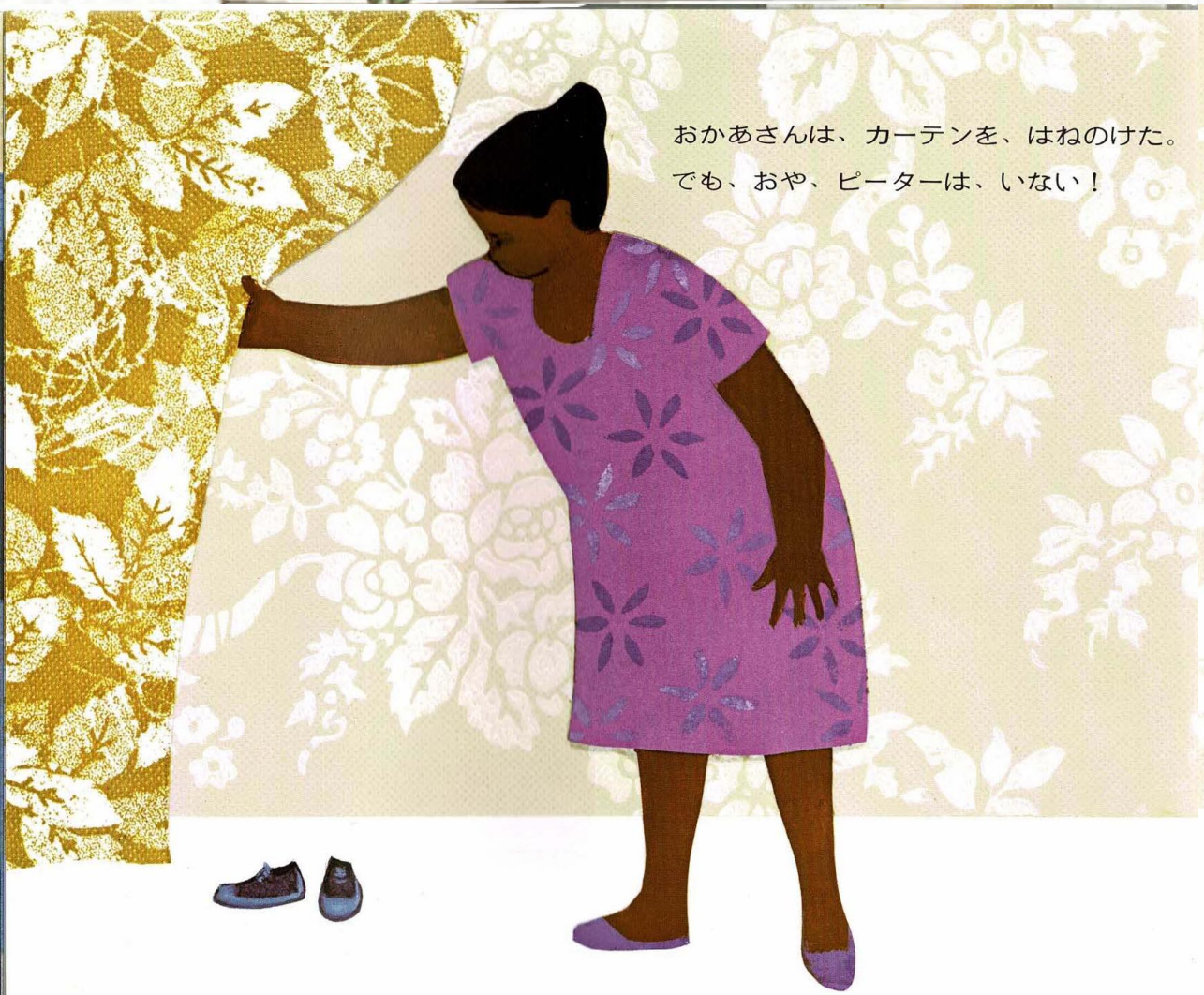


しばらくすると、おかあさんは、
ピーターが　いえに　かえっているのが、わかった。
「いたずらっこちゃん、カーテンの　かげに　かくれてるのね。」
おかあさんは、うれしそうに、そう　いった。



おかあさんは、カーテンを、はねのけた。
でも、おや、ピーターは、いない！

「こっちだよ」と、ピーターの　おおきな　こえ。





ピーターは、おとなの　いすに、すわった。
おとうさんが、そばに　すわった。
「おとうさん、あの　ちっちゃな　いす、
スージーのために、ピンクに　ぬろうよ。」
ピーターは、そう　いった。







そいで、ふたりで、ぬったんだ。

●作者と作品について

エズラ＝ジャック＝キーツは、1916年、アメリカ合衆国ニュー・ヨークで生まれ、育った画家です。

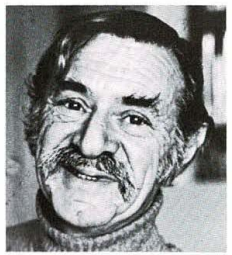
小さいときから絵をかき、はやくから、その才能はみとめられていました。父につれられ、有名な人たちの肖像画をみて歩きましたが、かれが感心したのは、ドーミエの「三等室」でした。名もない人々を力強くかきあげたのに、心をうたれたのです。

第二次大戦に従軍してから、かれは、当時よく売れていた雑誌「コリアーズ」にさし絵をかくようになり、金も入ったので、ヨーロッパへ一年間でかけていって、勉強しました。

黒人少年ピーターが主人公になる絵本を、キーツは長いあいだ心に暖めていました。ふと、ある写真に眼をうばわれて、心の奥底にしまって計画しだしてから、実際に完成するまでには、二十数年たっていたということです。黒い、かわいい、ぼうやのピーターがでてくる絵本は、みんなコラージュ（はりえ）でつくられています。いろんな材料がつかわれていますが、なかでも日本の和紙がもちいられていますから、わたしたちにはいっそう親しみがもてます。

キーツの絵本の特長は、何といっても、子どもの気持の動きに、ぴったりのったリズムをもっていることです。子どもたちが、じぶんでも紙を切って何かつくろうと思いはじめるとき、この絵本は、親しみがもてて、しかも詩のこころを失わない、ひとつのみごとな手本となるでしょう。

（木島　始）



E＝ジャック＝キーツ
（1916年～1983年）

ピーターのいす　NDC933　32p　21×24cm

作・画 エズラ＝ジャック＝キーツ／訳者 木島始
発行者 今村正樹／発行所 偕成社 東京都新宿区市谷砂土原町３－５
印刷 小宮山印刷　製本 難波製本

1969年10月初版　1刷
1977年12月初版　6刷
1977年12月改訂　1刷
2018年９月改訂　61刷

©1969 H.Kijima　Printed in Japan　乱丁本・落丁本はおとりかえします。

ISBN978-4-03-328060-8
本のご注文は電話・ファックスまたはEメールでお受けしています。Tel: 03-3260-3221 Fax: 03-3260-3222 e-mail: sales@kaiseisha.co.jp

